

奈良市社会教育推進計画の延長について

1. 奈良市社会教育推進計画について

- ・計画期間 令和3年度～令和7年度
- ・目標「生涯学習社会の実現～持続可能なまちづくり～」
- ・施策の方向性
 - 「まなぶ ～生涯学習活動の推進～」
 - 「つながる ～学びを通じた交流の推進～」
 - 「ささえる ～生涯学習の拠点(まなび・であい・つながる場)づくり～」

2. 現行計画延長期間

- ・現在の令和7年度末を1年間延長し、令和8年度末までとする

3. 計画延長の理由

本計画は、奈良市政の根幹となるまちづくりの目標を定めた「奈良市第5次総合計画」を最上位計画とし、本市の社会教育行政の方針を示す個別計画として位置づけ、他部局も含めた関連諸計画と連携し整合性を図るものとしている。特に、奈良市教育振興基本計画とは計画期間を揃えることで、より効果的に計画を進めていくことができるため、現行計画において計画期間を合わせて取組を推進してきた。

今回、奈良市第5次総合計画の後期推進方針が令和9年度から始まることから、奈良市教育振興基本計画が計画期間を1年間延長する方向性となっているため、「奈良市社会教育推進計画」についても現行計画を1年間延長する。

4. これまでの審議について

生涯学習・社会教育が社会において果たす役割については、国において中央教育審議会にて議論されているところである。ポイントとしては、従来からの社会教育の役割である「学びを通じて、人づくり・つながりづくり・地域づくりの循環を生み、持続的な地域コミュニティを支える基盤になる」ことに加えて、ウェルビーイングの実現・社会的包摂の実現・デジタル社会に対応・地域コミュニティの基盤といった役割が重要になってきている。

市でも、国の動向を踏まえて奈良市社会教育推進計画の改訂に向けて、奈良市社会教育委員会にて「次期計画のめざす姿」や「市の現状及び課題分析」等議論を重ねている。社会教育委員会の意見として、現行計画の基本目標や「まなび、つながり、ささえる」という理念を継続していくことの重要性、各事業において、この理念が相互に循環することの重要性、社会教育を基盤とした人づくりを推進していくことの重要性等が挙げられている。

こうしたことも踏まえて、引き続き社会教育委員会議で議論を行い、当該計画策定に向けて検討を進めていく。